

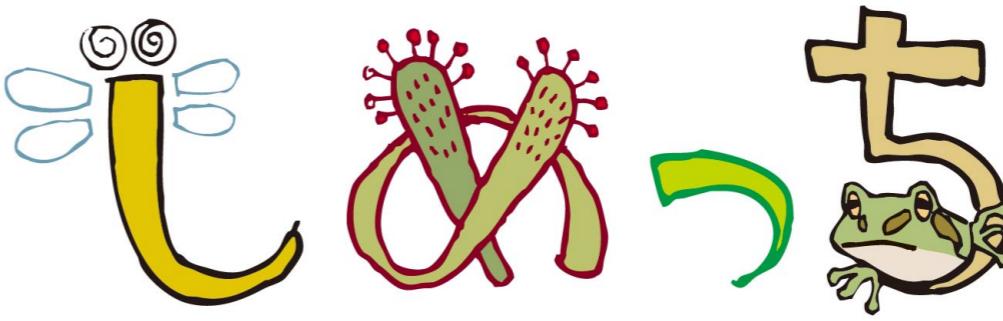
●● その他のお知らせ・ご報告 ●●

北海道湿地フォーラム シッチスイッチ 2020

私たちは水辺の生きものだ。人類史を紐解けば、そう考えることができるでしょう。かつて、水の受け皿たる“湿地”を制した者が王となる時代がありました。水を畏れ、水を制し、水を活かせた者が発展を遂げてきたのです。そんな社会ゆえに、水辺に神の存在を感じた人もいたでしょう。しかし…今の私たちはどうでしょうか？豊かな暮らしはいまだに水の上に成り立っているのに、水を、そして水のある場所を軽んじてはいませんか？今こそ、湿地を考える時。『シッチスイッチ』を体感してください!! (10/24開催分はライブ配信、10/25開催分はアーカイブ配信を行います。YouTubeしめっちチャンネルでお楽しみください！)

YouTubeで
動画配信中
**しめっち
チャンネル**

しめっちネットでは、YouTubeで動画を配信しています！今年2月に開催したオンラインイベント「しちち知っちゃった」でお送りした、しめっち落語やしめっちソング、矢部和夫先生の記念講演の様子もアーカイブ配信しています。今後、動画を随時更新していくますので、ぜひご覧ください！動画をご覧になって、活動に興味をもってくださった方、ぜひイベントに足を運んでみてください♪



七 通信 vol.4 October 2020

石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク
The Shimecchi Report
ニュースレター



オンラインで開催

2020 しめっち フォーラム レッチ知っちゃった

「湿地に興味のない人にも湿地の魅力を知ってもらいたい！」その思いで始まった「しめっちフォーラム」も第4回目を迎えました。コロナ感染症対策の影響で一度は中止を考えましたが、プログラム内容を変更してライブ配信することで開催しました。配信したのは①しめっち落語 ②しめっちソング ③ヤベトーキーの3つのプログラムです。最初のプログラムは4回目となるこみゅに亭樂時男さんの湿地落語。タイトルは「君の縄(名は)」、湿地に生息する動植物が登場するオリジナルの落語です。今回はスゲを使ったしめ縄づくりの実演付きでした。続いては「ザ・ホースボーン・ブラザーズ」の3名によるライブ演奏。「しちち知っちゃったんだよ～」の軽快なリズムが印象に残る、しめっちネットのために制作された「しめっちソング」の演奏でした。最後には札幌市立大学を退任される湿地の専門家・矢部和夫教授にご登壇頂き、退官記念講演のプレ企画としてしめっちネットの鈴木・牛山とのトークセッションを行いました。フィールドワークの3種の神器や湿地で好きな生きものについて熱く語り、「なぜ湿地にはまったの？」配信を観ている方からのコメントでのやり取りも行われました。

今年のフォーラムも「エンタメ企画」盛りだくさんとなりました。昨年までは当日会場に来られなければフォーラムを見ていたいただくことができませんでした。今回の動画配信が、より多くの方々に私たちの活動を知っていただける良い機会になれば良いなと思っております！まだ観ていない方は是非ご覧ください！

しめっちネット 活動と会員

かつて石狩川流域に広がっていた広大な湿地は農地開発やインフラ整備によってほとんどが失われ、それとともに豊かな自然環境や生活文化も姿を消しました。現在残されたわずかな湿地などの環境は各地域の市民団体などが保全・利活用の活動を進めていますが、常に失われる危機に瀕しています。そこで、たくさんの人に湿地の魅力と価値と現状を伝えるため、各地の団体がつながって力を集め、湿地の未来を作っていくと結成したのがこのネットワークです。

私たちは、環境の保全・再生・研究や、持続的な利活用の推進を行い、貴重な文化や自然環境を未来に残すために活動を行っています。また、湿地と地域社会のパートナーシップを作り、育てることで地域の活性化と湿地・人が共生する地域社会の形成を目指しています。

仲間募集！ 一緒に活動してくれる仲間や活動への支援を募集しています。身近な自然環境について、ともに考え、行動しませんか？

正会員
当ネットワークの趣旨に賛同し、運営に協力する意思がある個人や団体。NPO法人や各種団体など、湿地の保護や環境保全活動に取り組む団体。年会費5,000円

賛助会員
当ネットワークの趣旨に賛同し、財政面で協力する意思のある個人や団体。年会費5,000円(団体) 1,000円(個人)

サポート
当ネットワークの趣旨に賛同し、活動に興味のある方に登録いただけます。ネットワークのイベントや情報を届けします。

お問い合わせ・お申込み
石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク(しめっちネット)
札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園201号(北海道NPOサポートセンター内)
011-200-0973 info@ishikarigawa-net.com
http://ishikarigawa-net.com/

しめっちネットのHPで最新情報も見てね！



しめっちネットの
HPで最新情報も
見てね！

しめっちマスコット トノくん

湿地であそぼう！

「湿地」とひとことで言っても、山から海まで、川・湿原・湖・池・水田・水路・海岸など様々な環境があります。その場所を湿地だと認識していくなくても、誰もが一度は訪れたことがあるのないでしょうか。お花や野鳥の観察に行ったり、カヌーやキャンプなどをしに行ったり、お散歩やランニングのコースが湿地の周りにあるかもしれません。

今回は、湿地で自然観察をするときの服装や持ち物、湿地の回りで活動するときのマナーなどについてご紹介します。

自然観察に適した服装や装備

虫刺されやダニ対策のため、夏でも長袖・長ズボンを着ることをおすすめします。薄手の上着やウインドブレーカーを持ち歩き、気温や風の変化に応じて服装を調整できるようにしましょう。靴については、木道などが整備されている場所では運動靴やスニーカー、登山道やぬかるんだ場所を歩く場合は登山靴やトレッキングシューズ、長靴などを履くのがおすすめです。調査のために本格的に湿原に入る場合は、腰や胸の高さまである胴付き長靴（ウェーダー）を履いたり、ドライスーツを着たりすることもあります。湿地には、樹木があまりなく日陰が少ない場所もあります。日差しを遮るために帽子をかぶったり、水筒を持ち歩いてこまめに水分補給したりするようにしましょう。

あると便利な物としては、双眼鏡や図鑑、カメラやノートなどが挙げられます。双眼鏡を使うと野鳥などを遠くからでも観察でき、図鑑があれば動植物の名前や特徴をその場で調べることができます。観察したものをカメラやノートを使って記録しておくと、それについて後からさらに詳しく調べることができます。



湿地へ行くときに気付けること

野生の動植物には、勝手に採取してはいけないものがあります。許可なく植物を抜いたり、お花を摘んだり、魚や昆虫を採ることはしないようにしましょう。また、湿地の保全や危険防止のため、道から外れた場所には入らないようにしましょう。木道から筆記用具などを落とさないように気をつけたり、帽子が風で飛ばされないように工夫したりすることも大切です。湿原にゴミを捨てるのは厳禁です。環境にも良くないですし、綺麗な自然の中にゴミが落ちているのを見て良い気分になる人はいないと思います。ゴミは必ず持ち帰りましょう。美しい自然を今後もずっと楽しめるように「とって良いのは写真だけ、残して良いのは足跡だけ」を守りましょう！



湿地トリビア マガン

北海道では春と秋に見られる渡り鳥。美唄市の宮島沼には最大7万羽を超える群れが集結します。かつては全国各地に飛来していましたが、生息地の開発と乱獲によって一時は絶滅が心配されるほど減少し、1971年に国の天然記念物に指定されました。道内でも開拓前は各地に飛来していたと考えられ、アイヌにはサケの豊漁をもたらす鳥、ガマ刈りの時期に飛び立つ鳥などとして知られていました。アイヌ語で雁はクイトブ、クサフジは葉や花を雁の隊列に見立てクイトブキナと呼びます。マガンが数を減らした1960年前後は道内でも分布が限られ、石狩湾の望来沖でねぐらをとり、日中は当別町の水田で採餌していましたが、1978年から宮島沼にねぐらを移しました。1980年代から全国的に増加し始め、2000年前後から道内でも十勝川下流やサロベツ原野に分布を拡大しました。現在道内ではマガンの合同調査を実施しており、15万羽以上のマガンが北海道を通過しているとされます。



2020年度 合同探索会

石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワークでは、当ネットワーク正会員団体がホームグラウンドにしておらず、市民団体による保全・再生の対象になっていない湿地に注目し、それらを探索・見学する合同探索会を、結成以来毎年2~3回ずつ開催してきました。

7月19日に開催された2020年度第1回目の合同探索会は、当別町蕨岱にある2か所の原野を対象とし、約25名が参加しました。この地域は石狩大湿原を構成していた湿原の一つ・篠津湿原の最南端にあたり、その名残の原野が随所に散在しています。

1か所目はササに覆われた原野で、ササが膝丈以下に低くなっている一角に、本来ならば安定したボッグ（ミズゴケが優勢で天水で湿気が保たれている湿原）に見られるマンネンスギが散在し、一か所だけミズゴケのクッショングが残っていました。マンネンスギの根元にミズゴケが無いこと、泥炭採掘跡地に特有な大きな起伏が見られないことから、この原野では泥炭採掘よりもミズゴケの盗掘が横行していたとみられます。

2か所目は深い泥炭採掘跡が随所にある原野で、採掘跡の窪地の底には水がたまり、ヨシ、ミズゴケ、ヤチヤナギ、モウセンゴケなどの湿原の植物が数多見られました。地権者の意向でソーラーパネル設置が計画されている場所で、石狩平野の残存湿原が置かれている状況を改めて深く考えさせられるひと時となりました。

後日談

ソーラー発電工事を行う（株）エコスタイルさんとお話しした結果、施工性の問題等もあり、発電設備の設置位置を調整してくれ、湿地の核心部は保全されました。



しめっか 今後の予定

- ・しめっちカフェ
ゲスト：根室市歴史と自然の資料館 学芸員 外山雅大さん
- ・しめっち恵み体験～縄づくり～
- ・しめっちフォーラム

11月13日（金）
12月19日（土）
2021年2月6日（土）

湿地体験会も行う予定です！行事について日時が決まり次第、お知らせします！



しめっか 会員紹介 宮島沼の会



マガンカウント中！

宮島沼は、石狩川のほとりにある小さな沼です。ここは、マガンの国内最大最北の寄留地であり、毎年春と秋に数万羽が訪れます。2002年11月、国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録されました。

宮島沼の会は、ラムサール条約に登録された翌年に発足した、宮島沼の保全とワיזドユース（賢明な利用）を進める市民団体です。自然や農業のことなどを幅広く学び、楽しみながら様々な活動を実践し、宮島沼の自然を次世代に確実に引き継ぐことを目的としています。

宮島沼の会の活動の様子は、こちらをご覧ください。

MIYATOMO ~宮島沼・水鳥・地域の応援団~
<https://miyajimanuma.wixsite.com/miyatomo>

